

子どもが学ぶ、教師も学ぶ

校長 三浦 一 富

今年度の「全国学力・学習状況調査」の結果（全国や県の状況）については、既に報道等でご覧になったかもしれませんが、小木小学校の結果は、以下のとおりでした。

平成29年度	教科	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
教科別	小木小	85.0 (+10.2)	64.0 (+6.5)	83.0 (+4.4)	47.0 (+1.1)
平均正答率	県	77.0	59.0	80.0	46.0
(%)	全国	74.8	57.5	78.6	45.9

* Aは主として「知識」に関する問題、Bは主として「活用」に関する問題です。

* () 内は、全国と比較した時の差です。

平成27、28年度に続き、国A・B、算A・B共に県の平均、全国平均を上回りました。小木っ子の「学び」の成果が、数字にも表れています。

この調査には質問紙調査があり、子どもの生活実態やものの考え方などの傾向についても調べます。小木っ子の回答から、成果につながっていると感じる項目が幾つかあります。

- 毎日同じ時刻に寝る
- 家でしっかり宿題をしている
- やり遂げてうれしかったことがある
- 学校で友達に会うのは楽しい
- 好きな授業がある
- みんなで協力してやり遂げうれしかったことがある
- 先生はよいところを認めてくれる
- 先生は分かるまで教えてくれる

などです。ここから、基本的な生活習慣の確立、子ども同士や教師とのつながり等によって、「学び」に対する意欲も持続していくことが分かります。

一方で、全国や県と比較したとき、今後の課題として残るのが「メディアとの接触時間」の多さです。この傾向は、ここ数年変わっていません。メディアコントロールの力をいかに付けていくかが、この先の「学び」にとっても大きな課題となります。

そして、「学び」続けなければならないのは、子どもだけではありません。私たち教師も、“子どものために”を合言葉に学び続けています。人間関係づくり（学級づくり）を大切にしながら、授業の腕をさらにみがくなど、日々、研修に取り組んでいく覚悟です。